

2003年12月5日  
株式会社富士通アドバンスソリューションズ

## 「官公庁プロジェクト担当部門」がCMMレベル3を 達成いたしました

株式会社富士通アドバンスソリューションズは、11月20日、「官公庁プロジェクト担当部門」において、ソフトウェア開発能力を評価・改善する国際的指標である「CMM(注1)」のレベル3評価を得ました。

「官公庁プロジェクト担当部門」は当社のe-JAPAN対応の中核を担っており、高い品質のソフトウェア製品を提供する責務を負っています。レベル3評価により、予てより取り組んできた品質・納期・コストの改善の更なる進展が可能となりました。

当社は1996年にISO9001の認証を取得していましたが、昨年末から、「定量的品質管理」の強化のためにISO9001とCMMを融合させた品質マネジメントシステムの強化に取り組んできました。今回、その結果が評価されたものと考えます。

これを機に更なるソフトウェア開発プロセスの継続的改善を図り、当社の他業務分野への適用を拡大し、ソフトウェア製品の品質レベルアップを推進してまいります。

(注1)CMM(Capability Maturity Model for Software:ソフトウェア開発能力成熟度モデル)

米国カーネギーメロン大学ソフトウェアエンジニアリング研究所(SEI: Software Engineering Institute)が開発したソフトウェア開発能力成熟度モデルで、その成熟度レベルを5段階に指標化したもの。レベル3とは、ソフトウェア開発プロセスが組織的に定義され、常に継続的改善を実行する組織活動が確立しているレベルを意味します。

※CMMは、カーネギーメロン大学の登録商標です。

以上